

登壇者プロフィール

総合司会



徳島県
がん患者団体協議会

香留 美菜

家族をがん療養後に在宅で看取り、そのことをきっかけにがん患者や家族の支援活動を始める。当事者が気兼ねなく話をし、見聞きできる場所を作りたいと患者サロンやピアサポート活動を開始。以降、リレーフォーライフとくしまなど当事者と医療者が交流する機会を作るなど多様な立場が関わる場作りに取り組んでいる。

がん患者と家族の会 キャンサーライフとくしま代表

徳島県がん患者団体協議会 代表

全国がん患者団体連合会 理事

開会挨拶



国立がん研究センター
理事長／研究所長

間野 博行

1984年東京大学 医学部卒。1989年米国セントジュード小児研究病院生化学部門留学の後、1991年東京大学医学部第三内科助手、1993年自治医科大学分子生物学講座講師、2001年同大学ゲノム機能研究部教授となりEML4-ALK肺がん原因遺伝子を発見。2013年東京大学大学院医学系研究科細胞情報学分野教授、2016年国立がん研究センター研究所長、2021年日本学士院会員、2025年国立がん研究センター理事長。がん遺伝子研究、ゲノム医学が専門。

J-SUPPORT紹介



国立がん研究センター中央病院
支持・緩和医療開発部門/
精神腫瘍科/
J-SUPPORT代表

松岡 弘道

2002年奈良県立医科大学卒業の後、2012年近畿大学大学院腫瘍病態制御学卒業。同年より緩和ケアチーム専従医、2017年に豪UTS客員教授となり、国際共同研究のノウハウを学び帰国。近畿大学医学部心療内科准教授を経て、2020年より現職。2024年4月より支持療法開発部門長併任（現部門名：支持・緩和医療開発部門）。J-SUPPORT代表。日本サイコオンコロジー学会業務執行理事、日本緩和医療学会理事。

体験談：納得と信頼を支える対話の医療

がん経験者

患者として医療者と関わる中での経験や思いについて
轟浩美様と対談形式でお話いただきます。



全国がん患者団体連合会 事務局長
一般社団法人igannet代表理事

轟 浩美

1986年 お茶の水女子大学家政学部児童学科卒。2016年 夫の逝去に伴い、NPO法人希望の会理事長就任。2025年 全国がん患者団体連合会事務局長。2025年11月 希望の会解散・一般社団法人igannet設立。現在、胆嚢がん治療中

研究成果報告：MAPLE試験



国立がん研究センター
がん対策研究所
サバイバースhip研究部

松岡 歩

2003年京都大学医学部卒業。2018年名古屋大学大学院修了、医学博士取得。2022年より国立がん研究センターがん対策研究所に所属し、現在サバイバースhip研究部研究員。日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医。老年腫瘍学を専門とし、高齢がん患者の多様性・個別性に応じたヘルスケアの実現を目指して、高齢者機能評価や患者中心のコミュニケーションなどに関する研究に取り組んでいる。

パネルディスカッション

患者・市民とともに創る支持・緩和・心のケア

「どう伝える？ どう伝わった？」～患者さんと医療者の視点から考える対話と理解～

進行



国立がん研究センター
がん対策研究所
サバイバーシップ研究部

藤森 麻衣子

2005年早稲田大学にて博士（人間科学）取得。臨床心理士、公認心理師。2009年にシカゴ大学およびメモリアル・スローン・ケタリングがんセンターに留学。国立がん研究センター中央病院心理療士、国立精神・神経医療研究センター自殺予防総合対策センター室長を経て現職。がん患者・家族への心理社会的支援、意思決定支援の研究に従事し、患者・市民参画を通じて研究成果の社会・臨床への普及・実装を進めている。

登壇者



医療者
杏林大学医学部腫瘍内科

長島 文夫

1991年東北大学医学部卒業。同大学大学院修了。国立がんセンター東病院内視鏡部等を経て、現在、杏林大学腫瘍内科学教授。消化器がんの薬物療法を専門とし、長年、高齢がん患者の臨床研究や診療指針の策定に携わる。J-SUPPORT 2101/MAPLE試験では、高齢者機能評価を基盤に、患者の価値観や希望を踏まえた治療選択・意思決定支援に取り組んでいる。

患者・市民パネリスト

がん経験者



医療者
東京大学医科学研究所附属病院
腫瘍・総合内科

朴 成和

1987年東京大学医学部卒業、1992年国立がん研究センター東病院 内視鏡部医員、2002年静岡がんセンター 消化器内科診療科部長、2010年聖マリアンナ医科大学 臨床腫瘍学講座教授、2015年国立がん研究センター中央病院 消化管内科科長、2021年より現職。これまで、新薬開発の治験やJCOGやWJOGなどで多くの臨床試験に携わり、現在、日本胃癌学会 Patient Advocacy委員会委員長

患者・市民パネリスト

がん経験者

がん治療を経験した立場から、困った体験、工夫したこと、うまくいった体験、今後に必要なこと等々お話しいただきます。

閉会挨拶



国立がん研究センター中央病院長
J-SUPPORT顧問

瀬戸 泰之

1984年東京大学 医学部卒。同年、同大学医学部第一外科入局。国立がんセンターがん専門修練医、中通総合病院副院長、がん研有明病院上部消化管担当部長、東京大学医学部消化管外科学教授などを経て、2019年、同病院長。2024年4月より国立がん研究センター中央病院長に就任。「患者ファースト」を掲げ、専門家集団を率いる。臨床ではロボット支援手術を活用した食道がん根治術「NOVEL」などを開発した世界的外科医としても知られる。

開催日時：2026年11月4日(水)18:30～20:00

申込先：

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_t2bRHYLaRLCxwr24QNA9cw

※お申込み締切：2026年11月 4日(水)

研究成果報告会終了時間までお申し込みいただけます



【主催】J-SUPPORT 日本がん支持療法研究グループ

【共催】一般社団法人 全国がん患者団体連合会

【運営支援】キャンサー・ソリューションズ株式会社、
株式会社アスパークメディカル

本報告会は、全国がん患者団体連合会（全がん連）が運営をお手伝いしています。

全がん連には51団体が加盟していて、政策提言や「がん患者学会」の開催、がん教育委員会、緩和ケア委員会、

サバイバーシップ委員会、政策提言委員会、ピアサポート委員会、PPI委員会がありそれぞれの委員会活動を行っています。